

2016年9月17～19日の活動報告です。

9月17日23時半、参加人数14名、二台で石巻に向かいます。

翌朝6時、石巻市内に到着し、そのまま1時間かけ鮎川港へ。

鮎川港から船に揺られて20分、金華山に到着。すぐに作業を始めます。

今回は、神主の日野さんや作業監督の三上さん、上川さんに作業をたくさん段取りしてもらっていたのですが、あいにくの雨で屋根がある場所での作業になります。

地震で傾いてしまった鐘撞き堂を修復する作業と、例大祭に向けて本殿の苔を落とす作業の二班に分かれます。

鐘撞き堂の修復作業は、まずジャッキアップするための材料を切ったり、サンダーで穴を開けたりします。



工具を取り付け、少しずつ傾いた側を上げていきます。

しかし、雨で地面がゆるんでいたりと、鐘撞堂の土台が劣化していたことで、思うように作業が進みません。

雨の中、1日をかけ少しずつ上げていき、平衡とまではいきませんが

なんとか近いところまでは上げることができました。



本殿の苔落とし班は、25日に開催される例大祭のために築100年以上の本殿の苔を、たわしと雑巾で落としていきます。木が傷つかないように気をつけながらたわしでこすり、タオルで汚れを落としていきます。なんとか午前中で終わらせ、午後は参集殿という神社の宿泊施設の窓拭きと障子の張り替え作業です。今回、金華山は日帰りなので、夕方の船の時間まで行いました。



雨のため、当初予定していた作業はできませんでしたが、震災以降、復興作業に追われていて、神主さんたちがやりたくても手が届かなかった作業を行うことができて良かったです。

今回なぜ日帰りかと言うと、震災直後から携わり続けている石巻市湊町の草刈りを行うためです。これまでもよく行ってきましたが、ただ草刈りといっても私たちは、草を刈ること以外にも意味のあることだと思っています。

震災で大半の家が無くなり、空き地の中にポツポツと住居があります。震災前のように人の気配はなく、住んでいる方たちは寂しさを感じることや、取り残された気分になることがあるみたいです。

それに加え、空き地に背の高い雑草が生い茂っていれば尚更です。

それを私たちのような外部の人間が明るく草刈りを行っていることが、とても嬉しく励みになるみたいで、作業中、住民の方々がぞろぞろ集まってきて、大量の差し入れをいただきます。

また、現地の方々同士も久しぶりに集まったり、私たちも話し、今の現状を知ることができます。

以前、おばあちゃんに自分ではできないからどうしようかと思っていたと、泣きながらお礼を言われたこともあります。震災から5年半たちますが、現地はなかなか想像したようには進んでいません。現地の方々が少しでも前に進むためにも、草刈りは意味のあることだと思っています。

戻りますが、金華山から石巻市湊町に戻り、その夜は水産工場の佐藤さんが招いてくださり、復興した工場前でバーベキューを振舞っていただきました。

佐藤さんのご家族や、近所の方、お子さんの友達も集まり、たくさん話し、たくさん笑いました。

その途中、佐藤さんのサプライズで、メンバーの結婚祝いまでしてくれました。さらに、

佐藤さんの20歳の娘さんから二人へ歌のプレゼントが。

この事は、震災直後に出会ったあのころを考えると、本当によくここまで成長したねと感動し涙が止まりませんでした。本当に素敵な時間でした。



翌日、小雨ですが決行し草刈りを始めます。草刈り機で刈り、それを集め端にまとめていきます。

月曜祝日で仕事に出かけている方が多かったみたいですが、近所の方がぞくぞくと来てくださり、飲み物や甘い物など差し入れをいただきました。

5年以上の付き合いの方も多く、私たちが孫や子どものように思ってくれている方もいます。久しぶりに話すことができ、元気な姿に少し安心しました。



ちなみに、今回宿泊させていただいた千葉さん宅も震災直後からお世話になっていて、千葉さん宅は川沿いにあることから被災してしまいましたが、夫婦二人だけで泥をかき出し復旧させ、ボランティアの宿泊施設として解放してくださっている素晴らしい方です。ですが、堤防建設のために2年以内に退去しなくてはならないようで、とても残念がっていました。それでも、「来年の川開き(夏に開催される石巻の花火大会)が最後だから this is a pen の皆さんと一緒にみたいなあ！」と明るく話してくださる姿に本当に強いなと思いました。

お願いされていた空き地の草を刈り終わり、三連休の最終日だったこともあり、少し早めに切り上げ東京へ戻ります。

今回は、金華山を進ませることができ、さらに久しぶりに湊町の方々と話すことができて、とても充実した時間でした。

私たちが金華山を進めている間にも湊町は進んでいて、少し安心したのと同時に、止まっていることや、複雑になっていることもあるなと感じました。

なので、年に一度はこういう機会を作って、町の現状を知って、私たちのできることでサポートしていきたいなと思います。